

平成28年第5回（臨時）高砂市教育委員会 会議録（要旨）

日時

平成28年3月22日午後7時

場所

高砂市役所南庁舎4階研修室

出席委員

藤井委員長、衣笠委員、山名委員、吉田委員、圓尾教育長

出席事務局職員

大西教育部長、木村教育推進室長、西尾学校教育室長、
都筑教育総務課長、瀧野学校教育課長、北野学務課長、岩澤学校教育課副課長
新谷福祉部子育て支援室長、藤田福祉部子育て支援室主幹

本日の会議に付した事件

協議事項

- 1 伊保幼稚園・梅井保育園による幼保連携型認定こども園への移行について

報告事項

- 1 教育施設及び平成28年度教育費に係る予算要望事項について

議 事 協議事項1 伊保幼稚園・梅井保育園による幼保連携型認定こども園への移行に
ついて

- 事務局 (協議事項1について説明)
- 委員長 スケジュールが3年計画で上がってきています。一体化を図るということで、伊保幼稚園がなくなるということです。これについて、意見はありますか。
- 委員A 伊保幼稚園は、今の建物をどうするかということと、校区の中での幼稚園、あるいは認定保育園のあり方、校区内に1個必ず置くのか、それとも置かないのか。長期ビジョンでどんなふうに考えて統合していこうとしているのか、それを教えてほしい。
- 事務局 伊保地区においては、現行、民間園がさいしゅうじこども園と、28年度4月から真浄寺保育園が認定こども園化をすることになり、そちらの2園と、また30年度には、計画上は31年度に変更になりますが、梅井保育園と伊保幼稚園を一体化の上、認定こども園ということで、この3園でやっていくという方向性を持っています。
- 全体的な部分については、今後の方向性がまだ決まっていますが、高砂市全体では今後、児童数、または園の規模に応じて認定こども園の推進という計画を上げており、また、市長からも認定こども園化をするという、政策的な部分もあって、認定こども園化を行っていくということです。
- また、校区内に置くのか、置かないのかという考え方ですが、まだ未定な部分があります。また今後、望ましい幼児教育の推進委員会等で、その辺の方向性については今後の検討課題として考えていきたいと思っています。
- 伊保幼稚園の今後の活用については、庁内の施設利用の検討会議において今後どうすれば一番効率的であるかを検討していく予定です。今のところは具体的な案はまだ決まっています。
- 委員A 計画は計画で、それは必ずしも絶対しないといけないものではない。幼児教育の中で校区を考えると、計画の変更があったときには、ちょっと見直すということもあっていいのではないかと。全て計画どおり、1回そういう方針を出したら一切変えないという形で動かないでほしい。
- 事務局 委員さんのご意見はもっともですが、教育部としても時系列に、教育委員さんにもご説明をして、25年4月に伊保南幼稚園を廃園して伊保幼稚園に統合した件で、23年度、24年度、伊保幼稚園と伊保南幼稚園のほうに出向いて、保護者に説明をさせていただいています。伊保幼稚園がなくなり、梅井保育園との一体化についても説明をさせていただきました。保護者からはいろいろな意見が出て、もうちょっと早く一体化にならないのかとか、伊保南の建物はどうなるのかという両園での説明も、幼稚園、保育園の統廃合等の推進方

向に基づいて23年、24年、計6回、保護者にもご説明しています。

- 委員長 ほかにご意見ありますか。
- 実際統廃合とか、こども園化の話をするときに、教育委員会としての立場でどういう協議をしていますか。新しいから今のままで置いておきたいとか、どんどん一緒にしていいとか、事務レベルではそういう話はないんですか。
- 事務局 幼稚園の今後のあり方、また保育園、認定こども園の考え方は、望ましい幼児教育推進委員会という庁内の福祉部と教育部、また、財政も入って、副市長が委員長となって今後の方向性を協議しています。
- 幼保一体化施設というのはある時期から浮上してきて、それに置きかえたような形になっていますが、高砂はずっと以前から、いわゆる行革の関係で幼稚園と保育所を1つにしましょうというのでずっと計画的に進めてきているということ踏まえると、梅井と伊保の幼稚園も結局一緒になるという方向で進んできています。
- 委員長 その方向は別にいいと思うが、ただ、今利用している方が、今後違うところへ行くことで遠くなると、交通面で問題が出るのではないか。
- 事務局 園区の中で幼稚園までどれぐらいが一番距離があるかを調べると、ほかの園区とそんなに変わらなかったというところですよ。
- 委員B 今、教育委員会では中学校を核にして、中学校の下に小学校があるという形でコミュニティをつくろうとしていると思いますが、これはどう影響するんでしょうか。1つの中学校区になるのか、今度中学校になるときに分かれていく子どもがいるのかどうか。
- 事務局 伊保小学校で学んだ子どもたちは、荒井中と竜山中とに分かれます。ほかはそういうのはないです。
- 委員B そこら辺の連携が上手にできればいいんですが、中学校を核としたこういう形を今つくり始めたところなので、そのところをよく認識した上で、上手にしてくれるかというのがちょっと心配です。
- 委員A 私は認定こども園というのは非常に曖昧で、実際子どもや保護者に対して何のメリットがあるのかが何も見えていないので、不安感があります。高砂独自の幼保一体化した就学前教育をきちんとしていこうということが、ずれてきているのではないか。ほんとうに保護者やその地域に住んでいる子どもたちのことを考えての移転を考えているのか。机上の空論で住民の意見を考えずに幼稚園・保育園をころころ動かして、理解されているのかどうか。
- 委員C 私も自治会を含めた地域住民の方々、子育て最中の方々に対しての意識化がまだ十分できていないようなところがあるのではないかと感じます。連携して3つの園がやっていくような体制がとれているのかということも気になります。行政側の幼児教育に対する意識、それから、地域の住民の方の理解が両方とも不十分な感じがします。丁寧に説明したら地域や保護者に理解はして

いただけるような気はします。計画はおかしくないと思うんですよ。

○委員長 保護者関係への説明会等々での反応はどうですか。市のほうにお任せなのか、あるいは、かなり反対の意見もあるのか、そこはわかりますか。

○事務局 正直、意見も十分まだ出てきていないところがあります。真っ向から反対される意見ばかりでもないですし、じっと聞いていただいて、わかっていたかという感じも受けます。また、そういう意味ではこれからも、今の役員の方、今通われている方、今後の方々にもやはり説明を重ねていく必要があるなというのは感じています。

○委員A 園児や児童が少なくなったら小学校でも幼稚園でも廃校、廃園にしていくのは当然かもしれませんが、やはり、なぜこういうふうに移動させたかの説明をきちんとしないと。行政の都合であちこち動いているということになると、すごく不信感が募ってくるのではないか。

○事務局 それに関して、23年、24年にわたり伊保南、伊保幼稚園の保護者、また、ふれあい保育に来られている保護者に対しては、梅井のほうに一体化になるという説明もさせていただきましたが、それは25、26年度に関しては説明が抜けていたというところは非常に反省すべき点と考えています。

それは3月議会の中でも指摘を受けて、4月、5月、精力的にその辺の周知、説明はさせていただきたいと考えています。

○委員B 伊保小学校の方が中学校へ行くとき分かれてしまって、ばらばらになることを何とか解消できないのかなという声はよく聞きます。梅井にまとまった場合に、今度中学校へ行くとき3つに分かれるというのが、改善されるどころか余計ばらばらになるというのを、ほんとうに丁寧に幼稚園、小学校、中学校と対応してあげていただきたいと思います。

○事務局 今言われているのは、子どもの急増期の時期に学校の分離をしていきました。そのときに中学校区を決めていくのに中学校の規模に合わせて振り分けたと思うんです。ですから、本来であれば伊保南の子供たちは伊保と一緒に、例えば竜山へ行くべきだろうと思うんです。ところが、中学校の規模によって、伊保南小学校は松陽に行くようにしたという経緯がありますから、その辺は、今度、少子化が進んできたら、うまく整理できる時期が来るんだろうとは思いますが、今の段階で校区を再編するというのはなかなか難しいんじゃないかなと思います。

それから、認定こども園化していくのに1号認定の、幼稚園の子どもたちのメリットが明確でないということに加えて、応益負担から応能負担になったことで、今までと変わらないのに保育料だけ上がっているじゃないか。保育の質を高めると言うが、明確に、確かに質が向上したなというのが感じられるか。それも難しいところだと思います。保育所のほうは、確かに教育という面では明確にそういうことをしてもらえるから、幼稚園に比べたら充実し

てきたなという印象はあるかと思います。だから、もっと認定こども園の中で教育というのをこれまで以上に質を高める努力を、委員会も、現場もしていく必要は大いにあると思います。

○委員長 今後、例えば伊保地区でかなり人口が増えていて、家もかなり建っています。だから、若い世代に今後子どもが生まれた場合、それだけ受け入れできるのかということ、それから、今の比較的まだ新しい伊保幼稚園を今後何に使っていくのかはどの程度まで進んでいますか。

○事務局 伊保幼稚園の今後の利用については、議会が終わったらまた経営企画室のほうで施設の統廃合検討委員会を開催するということです。それと、児童数の推移については、全国的にも問題になっている少子化で、高砂市も少子化の傾向にあり、子ども・子育て支援事業計画で推計人口をはかる中でも全体的に高砂市の児童数が減る中で特に伊保地区についてはこれから子どもの数が減っていくというような推計が出ています。そういうところも見込んでの一体化というのも想定していますが、今後の園の規模としては、梅井と伊保を合わせて、3歳、4歳、5歳ともに2クラスずつの規模の園舎ということ想定して設計にかかろうとしています。

○委員長 それで乗り切れると見立てを立てても、足りなくなったらどうするのか。

○事務局 そういふところについては、民間園との兼ね合いも含めて3園で量を確保していくというような形でできるんじゃないかと想定しています。

○委員C 住民の方に、梅井のこども園は遠いから、さいしゅうじへ行かせようかという意識はあるのか、どうなのか。ただ、あまり幼稚園の教育に強い思いを持っている方がいるのかどうか分からないので、やっぱり梅井は遠いといった方がおられるのではないか。

○事務局 伊保幼稚園ができるまでは、伊保地区は北のほうにさいしゅうじ、真浄寺があるということで、その地域の方は民間に行くような傾向があったが、伊保幼稚園ができてからは伊保幼稚園にというようなことも聞いています。今後は、また十分に保護者にも周知していかないといけないと思います。

従来、さいしゅうじも真浄寺も保育園で、保護者にも教育という部分の認識がなかったが、このたびどちらも認定こども園になり、1号部分の子どもも受け入れて教育も公立と同じようにやっていくということで、保護者に十分、民間園でも教育も公立と変わらず小学校の連携も含めてやっていくという周知が必要かと思います。

○委員長 確かに位置から見ればちょうどトライアングルみたいになっていいのかもわからない。ただ、交通手段も並行して考えてもらいたい。山陽電鉄を渡らないといけない人がいるから、今の踏切自体、狭いし1本しかない。そこらを十分配慮していただきたい。

○委員A 今度、梅井にできるのは認定こども園だから、園区は原則ないんですね。

- 事務局 今後、こども園化がどんどん広がっていくと、今の単独園の校区自体も何らかまた考えていく必要があるかとは思いますが、小学校に入る前で校区というのを優先的に考えていく必要があるとは思いますが、ただ利便的な部分でも園区を外す必要性も検討すべきかとは思いますが。
- 委員A 梅井のことに限って言えば、保護者とかの話し合いで、どうしても納得してもらえないときは、自動車通園でも構わないのか。または距離の近い米田幼稚園へ行っても構わないという、弾力的な考え方はとっているのか、どうか。
- 事務局 ただ、こども園の園区をなくした状態にはなっている、仮に利用者を優先的に入れる、入れないという考え方では、やっぱり小学校区を基本に、その方を優先的に入れるようにという考え方はあります。
- 特に伊保地区は南北の距離が非常に長いので、ほかの地区と比べて自転車や徒歩やというところで難しい部分もあって、それを距離で見るとか、地区で見るとかというところで車で送迎を許可するのとかというのも今後の課題で考えていかなければいけないと思っています。
- 委員C 車の話も、民間の保育園に行く話も、また、たくさんのお友達と一緒に小学校へ上がりたいという思いも保護者にはあると思う。その中で説明会をしっかりと、保護者の思いを吸い上げて、軌道修正しながら進めていかないといいませんね。
- 委員A 公立の認定こども園と私立のこども園はスタンスが違うと思う。認定こども園に移行していくけど、あり方に関して確立した共通認識がまだ全然何も成り立ってないと思う。組織の運営の仕方にしても、設備の問題にしても、実際駐車場の確保などにしても全然統一見解がないのではないかな。
- 事務局 園区の関係は以前、教育委員会でも議論していただきました。補助執行を4月から福祉部にしてもらおう。しかし、幼稚園の通園区域に関することは従来どおり教育部のほうで所管するとなっています。その理由としては、幼稚園に関しては小学校の校区を基準に園区を決めています、保育園と認定こども園は市域全体を園区と決めているからです。ただ認定こども園となった場合に、2年間は曾根幼稚園でも、伊保幼稚園でも選べるという弾力的な措置をとるのかどうかということも今後検討課題の1つとして入ってくるかと考えています。
- よって、本日は、こういうご意見をいただいて今後福祉と協力して動くときに、それを反映していきたいと考えています。
- 委員長 建設工事が29年から始まりますが、建設中は、子どもたちはどこへ行くんですか。
- 事務局 建設中の児童については、スケジュール的にも、現行の園で保育運営をしながら工事するというふうに考えています。
- 委員長 それで十分工事をしながら園児の安全確保はとれますか。

- 事務局 そこは当然安全確保をするという前提で、園内を仕切る形で行います。保育を継続しながら建てられるようにということで工事のほうも2期に分けて行うように建築指導課のほうが考えてくれています。
- 委員B きょういただいた資料の、授業料の見込みと確保方策というところで、基礎単位を8地区に分けて考えていますという文章があったんですが、その8地区が小学校区で割ってありますね。将来小中一貫に向けて話を進めていくためには、校区の分け方も徐々に中学校区に変えていっていただいたほうが保護者に説明する場合でも、保護者は子どもが幼稚園だと、せいぜい小学校の部分ぐらいまでしか想像がつかないので、中学校もこういうふうに示してもらおうと、考え方がよくわかると思うので、そういうふうに変えていっていただければありがたいと思います。
- 委員長 きょうは協議ですので、いろんな意見を参酌して、またつめてください。

議 事 報告事項1 教育施設及び平成28年度教育費に係る予算要望事項について

- 事務局 (報告事項1について説明)
- 委員長 これについて意見ありますか。
- 事務局 1点だけ、1月21日の総合教育会議の中で、市長が残りの4園について早急に認定こども園化したいということで、この教育委員会の中でも議論の上、おおむね賛同するという意見をいただいています。それに関して、毎週1回、定期的に報告会がありますので、その場で委員長のほうに教育委員としてはおおむね賛同するという形の報告をさせていただいてよろしいでしょうか。要望事項として正規職員化とか、口頭で、意見としてありますと、聞かれたらお答えさせてもらおうかと思っています。
- 委員長 他にも要望としてはあったと思うんですが。
- 事務局 職員研修の充実であるとか、サービスの提供であるとか、その辺もまた市長のほうにご報告させていただきます。
- 藤井委員長 他にご意見なければ、閉会いたします。

平成28年3月22日 午後8時21分 委員長会議の閉会を宣告
